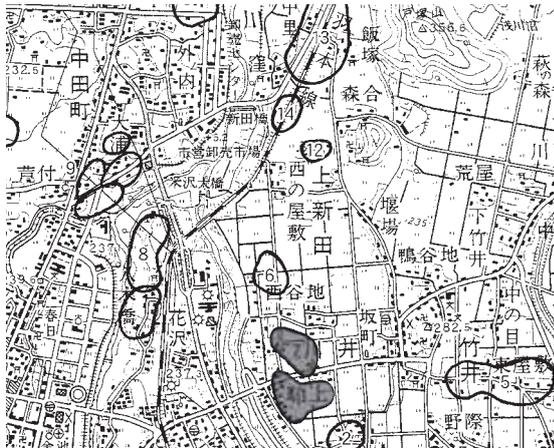


はせがみ 馳上遺跡 (第5次) ・ にしやち 西谷地b遺跡 (第3次)

遺跡番号 202-560・202-562・202-571 / 米沢市遺跡番号 353・354・A352
調査回数 第5次(馳上遺跡)・第3次(西谷地b遺跡)
所在地 米沢市大字川井字元立・道下
北緯・東経 北緯37度55分28秒・東経140度8分4秒～北緯37度55分12秒・東経140度8分12秒
調査委託者 山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起因事業 主要地方道米沢高畠線川井IC工区(米沢市川井地区)
調査面積 3,068㎡
受託期間 平成24年5月16日～平成25年3月31日
現地調査 平成24年5月30日～11月16日
調査担当者 草野潤平(現場責任者)・山木巧・佐藤智幸
調査協力 米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・河川跡・溝跡・畝跡・土坑・柱穴
遺物 土師器・須恵器・青磁・土製品・石製品・木製品(文化財認定箱数:15箱)



遺跡位置図(1:50,000)



写真1 調査区遠景(南西から)

調査の概要

今年度は、東北中央自動車道建設に伴う馳上遺跡第4次調査と同時に、追加インターチェンジ建設に伴う馳上遺跡第5次・西谷地b遺跡第3次調査も並行して実施した。調査区の大部分は西谷地b遺跡の範囲に該当する。

馳上遺跡の北側に隣接する西谷地b遺跡は、南側でこそ奈良・平安時代の遺構・遺物も目立つが、遺跡の中心時期は中世に帰属する。平成21年度の第1次調査では、多数の柱穴群を濠が取り囲む武家屋敷が確認され、さら

に翌年の調査では屋敷地を区画する溝跡から伊達家の家紋が入った漆椀など、当時の暮らしぶりを伝える様々な遺物が発見された。今年度は、馳上遺跡北端を含む南北に細長いA区とB区、および馳上遺跡第1次調査が行われた県道1号沿いのC区、馳上遺跡南端に位置するD区の計4ヶ所を調査した(馳上遺跡第4次の図1参照)。

遺構と遺物

A区では、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・河川跡・溝跡・土坑・柱穴など多様な遺構が検出された。竪穴住居跡の

うち、全形のわかるものは調査区中央付近で重なって見つかった2棟のみで、とくに約3m四方の住居跡からは古代の土器器長胴甕などが土圧で押し潰された状態で出土した(写真2)。また調査区北端では、重複する竪穴状遺構が確認された。調査範囲が狭いため詳細は不明だが、5世紀末葉前後の土器器高坏・埴などが出土し、西谷地b遺跡第2次調査区西側の河川跡を含め、遺跡形成期の遺構・遺物が集中するエリアの一つとして注目される。

竪穴住居跡の南側では、9世紀代の総柱建物跡(2×2間)と側柱建物跡(3×3間)を確認した。とくに側柱建物跡の柱穴には、一部を打ち欠いた内黒の有台皿を柱穴の中ほどに水平に埋めたものもあり、建物廃絶後に柱を引き抜いて土器を埋納した痕跡と考えられる。

東側のB区は、古代の土器を包含する河川跡が大部分を占め、完形に近い鞆の羽口も出土している(写真3)。西谷地b遺跡や馳上遺跡では焼土・炭化物を多く含む土坑が確認されており、羽口はこうした焼成遺構で鍛冶を行う際に使用された後、廃棄されたものと考えられる。



写真2 A区竪穴住居跡 遺物出土状況(北から)

河川跡の堆積土上には小型の柱穴が多数認められ、その柱穴群を区画するように走る溝跡から内耳土鍋や下駄、漆器などが出土した。平安時代までに埋没した河川跡の上に中世の屋敷地が営まれたものと判断できる。

C区では小型の柱穴や畝跡など中世以降と考えられる遺構が密集して検出されたほか、調査区北東隅において竪穴住居跡が部分的に確認された(写真4)。床面上で出土した須恵器坏などから、9世紀前半に位置づけられる。

馳上遺跡範囲南端のD区では河川跡・溝跡・土坑・柱穴が検出されたが、遺物の出土量はごくわずかで、平成21・22年度に行われた西側隣接地区の調査成果と同様、生活の痕跡が希薄である点を追認した(写真5)。

まとめ

今回の調査によって、西谷地b遺跡の中世の遺構は遺跡範囲の北側および東側に中心があり、北西側には古墳時代中期末～後期初頭の集落が展開したことが把握できた。また馳上遺跡南側の集落の様相についても過年度成果を追認・補強する材料が得られたと言える。



写真3 B区河川跡出土 鞆羽口



写真4 C区全景(東から)



写真5 D区河川跡(南東から)

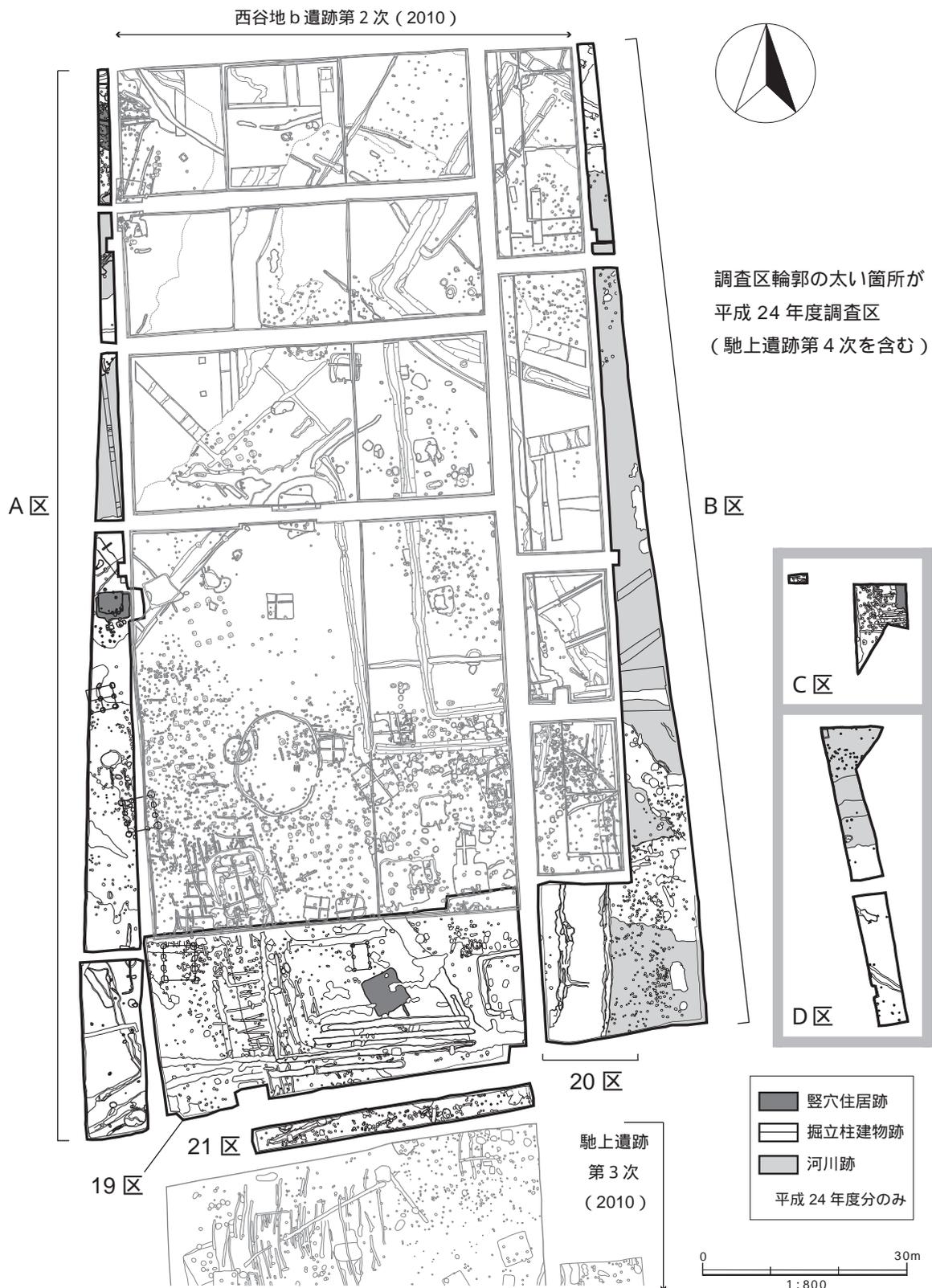


図 1 遺構配置図 (1 : 800)